

第4学年 図画工作科学習指導案

4年2組 25名
授業者 久保 圭一郎
授業場 体育館

1 題材名 不思議なかげの実験室

「造形遊び A表現(1)ア、(2)ア、B鑑賞(1)ア〔共通事項〕(1)ア、(1)イ」

2 研究主題とのかかわり

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

ICTの効果的な活用

3 題材設定の理由

本題材は、さまざまな材料の組み合わせや、光の当て方を試すことで、偶然できる影の形の面白さを感じ取ったり、より面白い形や自分の思いに合った形をつくりだしたりしていく活動である。ライトの光を壁面に当てる方法を知り、光を透過する材料や影をつくり出す材料を選び、それらを使って様々な影づくりを試していく。材料の置き方や組み合わせ方で影の形や大きさは大きく変わる。光源に近いものは薄く大きな影をつくり、光源から離れたものは濃く小さな影をつくる。材料の置く位置や、組みあわせ方を変えたり、光を当てる角度を変えたりすることで、偶然できる影の形の面白さを感じ取ったり、より面白い形や自分の思いに合った形をつくり出したりすることができる。そして、気に入った表現や面白い形ができたなら、その場で感じたことや考えたことを友達と話し合い、想像の幅を広げて活動を進めていくことができる。さらに、面白い影ができた際、タブレットで撮影し、鑑賞し合うことができるようにし、一人ひとりが考えてつくりだす世界のよさや面白さに気付くとともに、表現を通したコミュニケーションを楽しむこともできる。その中で、友達に認めてもらうことで、自分の表現に自信をもつことができるようになる考えた。

本学級の児童は、どの教科にも意欲的に取り組んでいる。図画工作科においても、楽しみにしている児童が多く、自分の表したいことをのびのびと表現することが好きな児童もいる。また、いろいろな表し方を試す中で、用具の使い方や表現方法の工夫の仕方などを友達と相談しながら、自分たちがイメージする作品をつくりだそうとする児童の姿も多く見られるようになった。さらに、自分の表したい表現に自信をもち、様々な場面で自己決定をしながら、試行錯誤し続けるような児童を育てたいと考えた。そこで、本題材のように友達と協働しながら活動する中で多くの表現にふれたり、認め合ったり、偶然性を楽しんだりすることで、自

分の表現に自信がもてるようにしたい。また、多くの材料を組み合わせたり、光の当て方を試したりして多様な試みを行い、つくり、つくりかえ、つくることのできる本題材を通して、造形的な発想や構想、粘り強く活動するなどの資質能力を高めたいと考えている。

本単元では、「影」を題材として、児童が偶然性や素材の面白さに気付きながら、のびのびと表現に取り組むことができるようにしたいと考えている。児童の実態として、「正解のない活動」に対して戸惑いを見せる傾向があるため、導入では、これまでの影遊びの経験を想起させる問いかけや、教師の実演を通して、児童が安心して活動に入ることができるように配慮したい。授業環境としては、身体を自由に動かしながら活動できるよう、広いスペースが確保できる体育館を授業場として設定する。活動に使用する不織布やさまざまな素材は事前に十分に準備し、児童が思いついたことをすぐに試せるようにしたい。活動では、友達と協働しながら光源の位置を調整したり、材料の組み合わせを工夫したりする中で、児童の主体性や試行錯誤する姿勢が育まれるようにしたいと考えている。活動中の見取りでは、「試す→気付く→さらに工夫する」といった思考の流れが生まれるように意図し、児童の発想や工夫に対しては価値づけや共感の声かけを行うようにする。表現に戸惑いが見られる児童には、友達のやり方を紹介したり、教師と一緒に試したりすることで、活動が停滞しないよう支援していきたい。また、鑑賞活動との一体化を図るため、タブレットを活用して児童が気に入った影を撮影できるようにし、それらを一覧で掲示して、友達の作品を自由に見合える環境を整える予定である。互いの作品を見的过程中で、新たな表現のヒントを得たり、自分の見方を深めたりできるようにしたい。本指導を通しては、児童が「やってみたい」「もっと試したい」と思えるような活動の場を教師が意図的に構成し、自分の表したいイメージを広げたり、見方や感じ方を深めたりしていけるようにしたいと考えている。

4 題材の目標

- (1)・身近にある材料を組み合わせたり、光の当て方を試したりして、影の形をつくるときの感覚や行為を通して、形や色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどが分かる。
 - ・光源となるライトや身近な材料を適切に扱い、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくる。(知識及び技能)
- (2)・身近な材料や影の形や色などを基に造形的な活動や、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考える。
 - ・形や色の感じ、それらの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもつ。
 - ・身近な材料を組合わせて光を当ててできた影の造形的なよさや面白さ、造形的な活動、いろいろなつくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。(思考力、判断力、表現力等)

- (3)・進んで材料の組み合わせ方や光の当て方を試し、面白い影の形をつくる活動に取り組み、
 つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造し
 ようとする。(学びに向かう力、人間性等)

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近にある材料を組み合わせてたり、光の当て方を試したりして、影の形をつくるときの感覚や行為を通して、形や色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどが分かっている。 ・光源となるライトや身近な材料を適切に扱い、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくっている。	・形や色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、身近な材料や影の形や色などを基に造形的な活動を思い付き、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている。 ・形や色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、身近な材料を組み合わせ、光を当ててできた影などの造形的なよさや面白さ、造形活動、いろいろなつくり方などについて、感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・つくりだす喜びを味わい進んで材料の組み合わせ方や光の当て方を試し、面白い影の形を工夫してつくる学習活動に取り組もうとしている。

6 指導計画（3時間 本時 2／3）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・教師の例示を見て気付いたことを交流し、活動への意欲を高める。 ・材料を組み合わせて様々な影をつくる。	知 ◎ 技 ◎	・材料に光を当てて影をつくりながら生まれた形や色、組み合わせによる感じなどを捉えている姿を観察し記録に残す。 (知識) ・思いに合わせて材料の組みあわせ方や光の当て方を工夫している様子を観察し、記録に残す。(技能)(観察、対話、撮影)
2	・材料の置き方や組み合わせ方、光の当て方などを試しながら活動する。 ・自分たちのイメージに合わせた工夫や偶然の発見を基に、影の形をつくりかえる。 ・自分が気に入った影をタブレットで撮影する。	思 ◎ (発想や構想)	・材料を組み合わせたたり、光の当て方を試したりする中で新しい形を思いつきながら活動している姿を観察し記録に残す。 (観察、対話、作品、撮影)
3	・できた影を紹介し合い、感じたことや思ったことを交流し、表し方のよさや面白さを味わう。	思 ◎ (鑑賞) 態 ◎	・活動してできた影の写真を見て、よさや面白さ表し方の工夫などについて感じ取り、話し合っている様子を観察する。 (観察、対話、作品) ・つくりだす喜びを味わい進んで材料の組みあわせ方や光の当て方を試し、面白い影の形をつくる学習活動に取り組もうとしている様子を見取り、活動全体を通して把握し記録に残す。 (観察、対話、作品)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。

7 本時

(1) 目標

身近な材料を組み合わせ、光を当ててできた影の形の面白さに気づき、自分の発想や構想を活かして工夫しながら新たな形づくりに挑戦することができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点 ○評価【観点】(評価方法)
5 分	1 本時のめあてを確認する。	・前時までの活動を振り返り、本時の活動のめあてをもつことができるようにする。
30 分	組合せ方をためしながら、おもしろい形をつくろう。	
	2 材料の置き方や組みあわせ方、光の当て方などを試しながら考え、思い付いた活動をする。 自分が気に入った影をタブレットで撮影する。	・材料を組み合わせ、光の当て方を変えることによって、形が変わる面白さに気付いた児童を認めたり、賞賛したりすることで、形や色の感じの面白さに気付くことができるようにする。 ・友達の活動を紹介することで、活動が停滞している児童が活動を思い付くことができるようにする。 ○手にした材料に光を当てたらどんな影ができるか想像しながら活動を考えたり、思い付いたりしている。 【思考・判断・表現（発想と構想）】 （観察、対話、作品、撮影）
10 分	3 振り返りカードに感じたことを記録する。 自分の活動を振り返り、光の当て方や材料の組合せ方など、工夫したことや感想を伝え合う。 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	・活動して考えたことや気付いたことを記入できるワークシートを用意する。

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	身近な材料を組み合わせ、光を当ててできた影の造形的なよさや面白さに気づき、進んでいろいろなつくり方を試し、自分の見方や感じ方を広げている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	同じ光や同じ材料でも、光の当て方によって影の形が様々なに変化し、それを見た感じも変化していくことが分かるように提案する。 他のグループや友達の作品を紹介し、他の影のよさや面白さを感じさせることで、活動のヒントになるようにする。

授業記録

題材名 不思議なかげの実験室

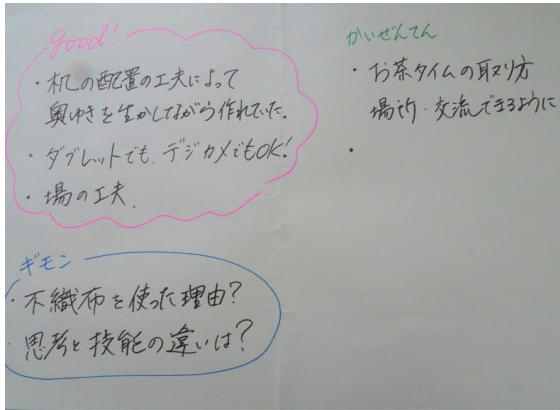
展開

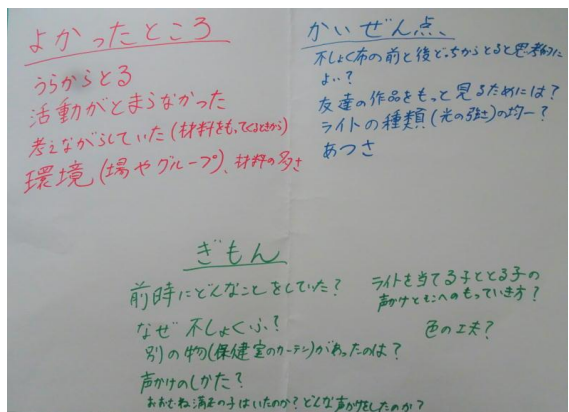
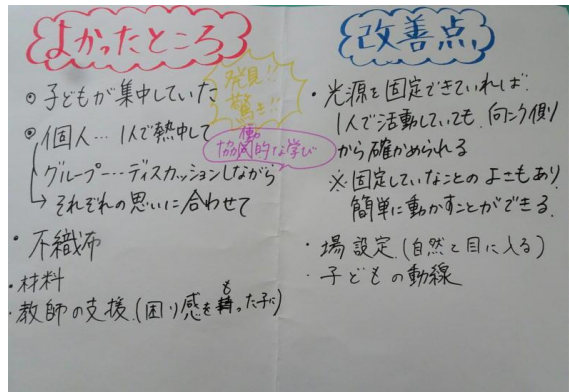
教師のはたらきかけ	児童の反応
1 前時のふりかえりをする。 ○前の時間はどんな実験をしましたか。 ○どんなところが面白かった。 ○そうですね。今日はみんなの集めた材料をすべて使っていいのでたくさん組み合わせせてみてください。ということで今日のめあてを読みましょう。 ○では活動に移りますが、注意することがあります。 1 使わない材料は元に戻す 2 走らない 3 ライトを人に向けない ☆安全に楽しもう 今言ったことに気を付けて活動しましょう。それと、気に入った影ができたらタブレットで撮影してください。 2 活動する。 ○どうしてその形がいいの。 ○どうして材料をそこに置いたの。 ○どうしてその材料にしたの。	○材料に光を当てて影をつくった。 ○光を材料に近づけたり、遠ざけたりすると影の形が変わるところ。 ○透明な材料は光が透けてきれいなところ。 ○材料の形が影になると面白い。 組合せ方をためしながら、おもしろい形をつくろう。 ○お城みたい。 ○おにぎりに見えてきた。黒い部分がのりみたい。 ○キノコみたいに見える。あ、ひっくり返したら貝殻にも見える。 ○なんとなく。 ○ここに置いた方が影が大きくなる。 ○もともと材料がつぶれていてねこの耳みたいだったから。

教師のはたらきかけ	児童の反応
○困ったら友達のところに行ってもいいよ。 ○面白い影はタブレットで撮ってね。 ＜水分補給のため一時活動停止＞ ○面白い形できましたか。 ○困ったら友達のところに見に行って工夫をヒントにしてもいいよ。 それでは、再開。 3 今日の活動のふりかえりをする。 (全体で) ○実験が終わりましたがどんな面白いところが見つかったかワークシートに書きましょう。 ○感想を発表してください。 ○次の時間は、みんなが気に入った影を見合いましょう。	○光を透かして見たら面白そうだったから。 ○たくさん使ったら高く積みそうだから。 ○面白いところがあった。ここで一緒にしてみようかな。 ○できた。影が大きくて面白い。 ○組み合わせたらねこの帽子みたいなのがつくれた。 ○うまく立たない。 ○A君のおにぎりみたいな形面白い。 ○Bちゃんの影大きい城みたい。 ○なんか戦車みたい。 ○光の当てる角度を変えたら影が動いて面白い。 ○友達が持ってきてくれた材料と組み合わせたら面白い影ができた。 ○光を通す材料を組み合わせると、色が濃くなった。 ○時間が足りない。もっとしたかった。 ○たくさんの材料を組み合わせると、アイデアが思い浮かんできて楽しかった。 ○影の見え方が変わって面白かった。

研究会記録

題材名 不思議なかげの実験室

発言者	発言内容
授業者	学級開きをして3ヶ月、図工が好きで意欲的に取り組む児童が多いが、「仕上がった」「もうここまで」と考え、「つくり、つくりかえる」ような思考の広がりや深まりが難しい様子もみられた。本単元では「影」を題材として、児童が偶然性や素材の面白さに気付きながら、のびのびと表現に取り組み、活動が持続していくよう素材や場の設定を工夫した。本活動「不思議な影の実験室」の実践は昨年度に続いて2回目である。児童が発想を広げ、自由に活動できるように体育館を活動場所とし、他の児童の活動が自然に目に入るように材料を囲むように場を設定した。児童は、広い場所で楽しんで活動していた。振り返りシートには、ほとんどの児童が楽しいと書いていたが、活動することが楽しかったのか、影の形や濃淡などの面白さへの気づき、友達や素材と交流し思考することが面白かったのかは、考えてみる必要がある。児童の活動の様子や支援の仕方などお気づきの点、ご指導をお願いします。
助言者	本日の授業で先生方がいいなと思った子どもたちの姿、画像にコメントつけをアップし、共有したいと考えている。気になるポイントや見つけた場面にプラスフォローしてください。できるだけ多くアップできると指導者が見切れなかった場面もより多く見ることができ評価にもつながる。児童の資質能力的にこんな能力がついているのではというのを考えコメントいただくと、校内で共有でき今後の研究会にもいかせる。10分ぐらい。 ○画像をアップし、指導や活動の様子について振り返り、支援の在り方や評価のポイントを共有した後、グループ協議を行い、その後共有した。
参会者	〈グループ協議〉 



助言者

このように授業の中でも ICT を活用すると互いに共有したりポートフォリオ的に使い記録として残したりできる。児童相互にコメントしたり教師が価値づけたりできる。鑑賞の場面でも使用することができる。

授業の中でめあてに向かって行きにくい活動があったときには、みんなで確認する場面があっていいと思う。困り感がある児童には、ヒントとして、ちょっとこんなものがあるよと教科書を見せるなど実際の様子に合わせて使ってほしい。これまでも教材研究や授業実践をされてきたが、場の設定や材料についてより吟味し、いろんな角度から検証し、よりよい授業づくりをしていただきたい。